



2019

詩のピクニック

主 催
赤磐市教育
委員会

今年度は、「風土から詩を読む」というテーマで、地名を詩にした作品を読んでゆきます。例として東京を描いている詩を、明治時代から現代まで時代順に取り上げます。

また、永瀬清子が、自分の住んだ金沢や東京、岡山を書いた詩も紹介します。

講 師 行吉正一（元・東京都江戸東京博物館学芸員）
（順不同） 5月、8月～9月、11月、2～3月
北川久美子（高校非常勤講師）1月
井上直美（元・中学校教諭、岡山県詩人協会会員）12月
赤磐市教育委員会学芸員 6月
日 時 毎月1回・原則第2金曜日 13時30分～15時30分
場 所 赤磐市立熊山公民館1階講座室
対 象 一般（市内在住・在学・在勤）
募集人数 20人（先着順）
参 加 費 年額 1,000円（別途実費負担）
申込開始 2019年4月2日（火）午前9時～

講座内容 2019年5月～2020年3月

5月10日（金）オリエンテーション・風土から詩を読むということについて

オリエンテーションとして、風土から詩を読むということについてお話しします。

6月14日（金）永瀬清子の詩「降りつむ」を読む

上皇后美智子さまが英訳された永瀬清子の詩篇を読みます。

7月6日（土）公開講座「薄田泣菫 その文学と人生」

岡山県倉敷市出身の文学者・薄田泣菫について、その人生とともに作品（詩やエッセイ）を読み解きます。

8月16日（金）東京の詩を読む1（明治時代～大正時代）

石川啄木、高村光太郎、室生犀星の詩を読みます。また、永瀬清子が金沢を描いた詩も紹介します。

9月13日（金）東京の詩を読む2（大正時代、関東大震災～昭和時代）

萩原朔太郎、金子光晴、中原中也の詩を読みます。また、永瀬清子が東京を描いた詩も紹介します。

10月11日（金）永瀬清子生家見学（荒天の場合、見学は中止します）

熊山公民館から永瀬清子生家（赤磐市松木）まで散策し、生家を見学します。

11月15日（金）東京の詩を読む3（昭和時代・戦前）

北川冬彦、中野重治、小熊秀雄の詩を読みます。また、永瀬清子が東京を描いた詩も紹介します。

12月13日（金）夭折の詩人 中原中也の生涯——母フクの口述をもとに——

30年という短い人生を駆けぬけた若き天才詩人の「悲しみ」を読みといていきます。

1月10日（金）源氏物語の和歌に親しむ

若紫巻以降の歌を読んでいきます。

2月21日（金）東京の詩を読む4（昭和時代・敗戦と敗戦後）

金子光晴、黒田三郎、辻征夫、アーサー・ビナードの詩を読みます。また、永瀬清子が岡山を描いた詩も紹介します。

3月13日（金）東京の詩を読む5（盛り場）

浅草、銀座、新宿という盛り場が描かれた詩を読みます。また、永瀬清子が岡山を描いた詩も紹介します。